

妊娠中の実習で予想されるリスク等の説明・同意書

1. 感染症のリスク

- 病院・介護施設等の実習施設で、風疹・麻疹・インフルエンザ・COVID-19・ノロウイルス・結核等に曝露される可能性がある。
- 妊娠初期の感染症（風疹など）は胎児に重大な影響を及ぼすリスクがある。

2. 身体的負担

- 長時間立位にあること、移動などにより、腰痛・むくみ・倦怠感を増すことがある（個人差あり）。
- 身体的負担の増加により、早産等のリスクを高める場合がある（個人差あり）。

3. 精神的負担

- 妊娠に関わらず、実習における責任感等からストレスや緊張が強まることが多い。
- さらに、妊娠中のホルモン変動により、情緒が不安定になりやすく、精神的負荷を大きく感じることもある（個人差あり）。

4. 事故・転倒等のリスク

- 実習施設内での移動中に人や物との衝突等により転倒リスクが高まる。
- ベッドメイキング、車いす移動、入浴介助等、腹部への衝撃を伴う動作を含む実技訓練がある。

5. 薬品や放射線への曝露

- 消毒薬や放射線に暴露される場面やエリアがある。

○ 学校として対応できる措置（配慮）

以下は、実習中に学校が対応可能な措置（配慮）の一例です。妊娠は病気ではありません。また、個人により、日によりコンディションも様々です。そのため、学校が一律にこれらを提供することはできません。希望者は、学校所定の「合理的配慮申請書（P.82-83）」を提出した上で、相談してください。

- ① 妊娠中は感染リスクの高い診療科・病棟（例：小児科・感染症病棟）へは立ち入らない形で実習を行う。
- ② 長時間の立位、階段移動を避ける。
- ③ 休憩(水分摂取を含む)できる椅子・スペース等を提供する。
- ④ 自由な時間・回数、トイレを利用できるよう配慮する。
- ⑤ 患者の車いす移動等や母体に負荷のかかる実技訓練を観察やイメージ訓練に置き換える。
- ⑥ 妊娠期間中の状態変化に応じ、実習スケジュールを変更・分割・延期調整する。

○ 学生の理解・協力が必要な事項

1. 妊娠の経過および日々の健康状態について実習担当教員や実習指導者と必要な情報共有を積極的に行ってください。この情報に基づき、実習施設と相談の上、必要な配慮に努めます。

II. 必要に応じ、妊娠経過等について医師の意見書を提出していただく場合があります。熱心の実習に参加することは大事ですが、強い使命感・責任感から、母体に過度な負担を強いてしまっていることに気が付かないことがあります。教員がこういった状況を察した場合には、担当医師との情報共有に基づき、できる限り安全に実習を行うよう配慮します。

上記内容を、書面を示しながら十分に説明しました。

令和 ■年 ■月 ■日

(説明教員)

印

上記説明を十分に理解した上で、

ア 実習を希望します。 イ 実習を希望しません。

ウ その他

< 学生の希望・その他自由記載欄 >

令和 ■年 ■月 ■日

(学生)

印

※ 「説明同意書」の書式紹介のために作成したものです。全ての内容が網羅されているわけでも、説明内容について保証するものでもありません。各学校の状況に応じて、より望ましい説明・同意書をご準備ください。